

宗教部 ニュースレター

CONTENTS

巻頭言・・・1
学生宗教委員長挨拶・・・1
宗教部活動報告・・・1
・福岡女学院夏季セミナー
・サマー聖書キャンプ
後期キリスト教週間・・・3
聖歌隊練習報告・・・4
クリスマス礼拝・祝会のお知らせ・・・4

巻頭言

平素より、沖縄キリスト教学院のキリスト教活動を覚えて頂き、感謝申し上げます。
『宗教部ニュースレター』は今回で第4号を発行することになりました。これが学生・教職員はもとより、卒業生、関係諸教会を繋ぐ架け橋として今後いっそう活用されてゆくことを願っております。

宗教部長 青野和彦



ご挨拶

学生宗教委員長 人文学部3年 佐久眞 基子

みなさん、こんにちは。後期がスタートして、沖縄もすっかり秋めいてきましたね。HOPE（宗教部）では、着々とクリスマスの準備をはじめているところです。最近では、12月1日に行われた学生企画礼拝の練習をしていました。肌寒い天気が続く中、「ジムとデラのおくりもの」という紙芝居を読んで、みなさんの心をぽかぽかにできたらいいと思い頑張りました。ご覧になっていただけましたか。

また、12月6日には施設訪問を予定しております。施設で暮らす方々へ、ささやかなクリスマスソングの贈り物をしたいと計画中ですので、お祈り頂ければ幸いです。

最後に、みなさんはクリスマスという言葉の意味をご存知ですか？ヒントは、英語でChristmasと書かれることです。実は、Christは救い主、イエス・キリストのことを指しており、massはミサを意味しています。つまり、クリスマスはイエス様を礼拝する日なのです！本学でも12月19日にクリスマス礼拝が行われます。今年も聖歌隊の賛美やキャンドルサービス、外国語聖書朗読など充実したプログラムとなっております。どうぞご家族やお友達を誘い合って、素敵なクリスマスをお過ごしください。



福岡女学院大学夏季修養セミナーに参加して



沖縄キリスト教学院大学
英語コミュニケーション学科 2年次
4133100 山口舞

福岡に行くときは台風が発生していたため、天気が悪く、飛行機が2時間遅れての出発となりました。そして、福岡に着いた時には福岡女学院の学生さん、職員に温かく迎えていただき、1日目は福岡を観光しました。

そして、2日目から3日目にかけて、グリーンピア八女というキャンプ施設での夏季修養セミナーに参加しました。夏季修養セミナーでは沖縄アワーがあり、そこでは沖縄や本校、本校の学生宗教委員会の紹介や、沖縄の伝統文化の空手と三線を披露したりしました。どれも好評で良かったです。夏季修養セミナーは長い休憩時間が多くあったので、そこで福岡女学院の学生さん達と交流を深めることができました。

最終日には沖縄に帰る前に、福岡女学院の学生さんのご案内の下、博多駅に行って、パンケーキを食べて、昼ごはんは一蘭という博多ラーメンのお店でラーメンをいただきました。

この、夏季修養セミナーを通して、沖縄から県外に行かないとできないような経験を多く持てて、本当に良かったです。特に、福岡女学院大学の皆さんと多くの交流を持てたことは貴重な体験でした。このように、県外の同年代の学生と友達になることは県外に出ないとなかなかできないことなので、この研修に参加して本当に良かったです。



2014年度サマー聖書キャンプ「キリストの平和: 沖縄から世界へ」

福岡女学院大学人文学部現代文化学科 4年 山田莉子

「聖書・平和・交流」を柱とし組み立てられた2泊3日のサマー聖書キャンプ。私はご縁があり、今年もプログラムに参加することができた。沖縄の人々の思いや現状は現地を訪ねなければ体験することができないため、毎年沖縄を訪れ「平和」について考える時間が与えられたことに大変感謝している。同世代の学生と聖書をもちいて基地やガマを巡った時間は貴重な日々だった。道の駅かでなでは、基地の説明を学生から聞いた。嘉手納基地には4000mの滑走路があり沖縄戦のスタート地点であること。嘉手納町の83%を基地が占めており、住民は飛行機の爆音に悩まされていることなど沖縄の現状を実際に知り見ることができた。過去のプログラムでは先生やガイドスタッフの方からお話を伺っていたが、学生の口からしっかりと説明を受けたのは初めてだったため印象に残っている。学生の姿を見て沖縄では基地や戦争を学ぶ教育がされていること、また沖縄の学生は基地について知り自分の考えをはっきりもっていることを知った。基地イコール沖縄と認識し、福岡の私は関係ないどこかで思っていたのかもしれない。無知であることに恥ずかしさを感じたと同時に、無関心ではなく事実を知り意見をもつことの大切さを感じた。

最終日のバイブルスタディーでは、青野先生から「敵を愛しなさい」というタイトルでお話を伺った。人は平等に神に愛されているため、神の愛を知ったとき緩慢な心が生まれ相手を変える力を生み出す。相手を思いやり理解することで平和につながるという内容だった。平和は大事、戦争はいけないものなど当たり前としか理解していなかった。「平和とは何か?」「平和はどう作る?」「平和を求めるのになぜ戦争があるのか?」と問われるとはっきりとした回答が見つからない。しかし、今回のプログラムや青野先生の言葉を通して、相手を受け入れる力が平和につながると感じた。大きな問題は解決するには時間がかかり一人の力では難しいが、敵を愛することで理解が生まれ互いに変えることができるなら、今私が出来ることは身近にいる隣人や戦争の歴史に向き合い互いに理解し歩み寄ることだと感じた。

今回のプログラムで自分自身の無知さを痛感し、互いに思いやることで平和につながると感じた。来年は社会人になりプログラムには参加できないが、個人的に沖縄へ訪れ考えを深めたい。微力ではあるが私が体験したことを友人に話し、少しずつ広めていきたい。



サマー聖書キャンプ 感想

沖縄キリスト教学院大学 英語コミュニケーション学科 2年
阿波根 昌孝



今回のサマー聖書キャンプは僕にとっては二回目のキャンプでした。

前回は平和学習に対する意識が低く、とても考えさせられるキャンプとなりました。そこを踏まえると、今回のキャンプでは平和学習だと言う意識が高まった分、成長できたのではないかと思います。

今回のプログラムでは、伊江島での平和学習と阿波根昌鴻さんについてのお話を聞ける事もあり、個人的な意味でもとても勉強になりました。

戦争体験者の高齢化が進み、当時のお話を聞く機会が減ってきている中、当時の事や、謝花悦子さんの基地に対する考えを聞けて、とても勉強になりました。当時のお話をしてくださった謝花悦子さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

しかし、正直なところ、阿波根昌鴻さん本人に当時のお話を伺いたかったです。

キャンプでは、平和学習だけではなく福岡女子学院大学の学生との交流もありました。

福岡の学生とは、バイブルスタディーを通してお互いの大学を紹介したり、方言を教えあったりしました。

そして、皆で海で泳いだり伊江島でタッチューに登り、夕食も協力し合いながらカレーとバーベキューを作りました。

皆で協力してやることですぐに打ち解け、一緒に楽しむことが出来てとても良かったです。





サマー聖書キャンプに参加した感想

福岡女学院大学人文学部現代文化学科 チシュウフウ

平和・聖書学習・交流を三つの柱としたプログラムに参加させていただき、ありがとうございます。とても、充実した2泊3日でした。天気にも恵まれて、貴重な学習ができ、本当に神様に感謝する。

今回のプログラムに参加して得たものは主に三点に絞った。

《教育の恐ろしさ》

糸洲先生がずっと運転していただき、車内で持った疑問を丁寧に説明してくれた。道の駅嘉手納基地を一望できた。テレビや新聞や人の話から沖縄アメリカの基地あることを知っていたが、自分の肉眼で先が見えない広さを眺めたとたんにごく驚いた。オスプレイはしょっちゅう上空に飛んだり、住民たちの生活にすごく騒音、危険ももたらしたりするのは地域の住民に対して普通の生活の中で当たり前のことになっているようだ。それは沖縄の問題か、日本の問題か自分の中で葛藤した。

次はチビチリガマで「集団自決」の話聞いて、第二次世界戦争(太平洋戦争)中、チビチリガマで非難した難民は「天皇陛下バンザイ」を呼んで自殺したり、子供が母の手にかかり死亡したり、毒薬を注射して自決したりするのは悲惨な話を聞いた。その中で半分以上が18以下の子供が多かったようだ。当時では日本軍は住民を守ってくれなかったという話を聞いた。この事件から学んだことはやっぱり、その時代の教育の間違ったことでたくさんの命が失われただろう「命」の大切さが実感し、先頭観念にことわず、自分の目で判断する大切さも実感した。

《人災である戦争の恐ろしさ》

伊江島に渡航して謝花さんからの話からたくさんの勉強ができた。天災である地震、津波、土砂崩れなど、人間の力では防げない災害である。しかし、人災である戦争は天災より人を滅びされる。そこは戦争で激しい攻撃を受け、この小さい島ではおおくの命と財産をなくした。戦争の苦難の歴史を訪ねて平和について改めて考えることができた。平和のような現代では謝花さんはそういう言葉をおっしゃった。「沖縄に米軍の基地がある限りでは、戦争が終っていません。まだ続けています。」だ。そういう言葉が印象に残った。戦争体験してきた謝花さんは基地を全部なくすという主張だった。しかし、基地がなくなったら、隣国からの紛争が起こるかもしれない。基地があることで逆に日本を守ってくれたという意見もあった。一瞬自分の中ですごく矛盾な課題を感じた。ここで「なぜみんな戦争するか？」を考えてみたい。戦争は自分がいかに強いを見せつけ、相手を殺して食料、土地、財産を自分のものに所有する下品な行為と言える。無理やり相手のものを奪うことは罪であり、愛がない悪魔であり、神が祝福されないことだ。

《事実を知る大切さ》

IT業界が進んでいる現在、知りたい情報を簡単に手に入れることができている。ネットを開いて、キーワードを入力し、欲しい情報がたくさん出てくる。逆にどちらが真実かわからなくなってしまう。やっぱり現地に足を運んで、自分の目、肌で感じる大切さを実感した。

最後に、今回の活動に参加し、戦争の困難を体験していない私たちはリアルに戦争の恐ろしさ、現在の生活を大切にする覚悟もできた。それに次の世代にどうやって継承していくか私たちの課題だと思った。私は中国から日本に留学している。5年に経った日本を自分の故郷のように愛着している。日中では歴史的に悲惨な戦争も起こった。現在も領土に関する葛藤もある。国々の関係と個人個人の全く同じことではない。最後一番言いたいのは、戦争が悪い。これから神様から与えられたものを尽くし、世界の永遠の平和のために努めたい。

今回同行していただいた青野先生、糸洲先生、仕事で途中に参加したウルヴォグ先生、沖縄キリスト学院の学生たちに感謝する。たくさんの気を使っただいて、ありがとうございます。



2014年度 後期キリスト教週間プログラム

- ・10月27日(月): 月曜礼拝
- ・10月28日(火): 学生企画プログラム① 聖書に出てくるレンズ豆を使った料理を作る
- ・10月29日(水): 教職員・学生昼食会
- ・10月30日(木): キリスト教講演会
【講演者】町田 健一氏(国際基督教大学 [I.C.U.] 教養学部教授)
- ・10月31日(金): 学生企画プログラム② DVD『翼のない天使』上映会



2014年度後期キリスト教週間・キリスト教講演会報告
「平和をつくり出す人～それぞれの立場で求められる生き方とは～」

宗教部では今年度後期キリスト教週間のメイン・イベントである「キリスト教講演会」の講師として、町田健一先生(国際基督教大学・大学院教授)をお迎えしました。

町田先生は表題について、次の3点からアプローチされました。第一は、歴史上の様々な戦争からの学びをとおり、現代を生きる私達に求められる生き方からです。つまり、それは特に太平洋戦争において、政府の思想教育や統制された情報によって戦争が喧伝され、国民が死に追いやられた結果を招いたことです。町田先生は戦争中、特攻隊員達が死ぬ意味について葛藤し、苦悩した事例等を紹介され、過去の戦争の歴史から、正確に問題を把握することの大切さを提起されました。第二は、戦争けんか・いじめの構造からです。それらは規模こそ違うものの、異質なものを排除し、それに制裁を加える点で、本質的に共通していることとお話しされました。また、「いじめの五層構造」(加害者、被害者、観衆、傍観者、いじめをストップさせようと心を痛め行動している人々)を挙げ、いじめに対する教師の責任や指導力の重要性も指摘されました。第三は、キリスト教学校・大学の責任からです。キリスト教教育は、道徳教育、人格教育・公民化教育を含む「平和教育」に土台としたより良い方向性(より良い生き方を目指すもの)であり、最終的に「キリストに倣う生き方」を志向する営みであることを強調されました。最後に先生は、2014年度ノーベル平和賞受賞者のマララ・ユスフザイさんの「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、1本のペンが世界を変えるのです。教育だけがたった一つの解決策です。教育が第一です。」という国連本部での演説(2013年7月12日)の一節を引用して講演を締めくくられました。続く質疑応答の時、一人の学生から、愛国心教育をいかに沖縄の子供達に伝えてゆくのかという質問を受けました。沖縄の地で教育者を志す学生にとって、それは切実な問いであると考えられます。

このように、町田先生は教育学およびキリスト教教育の視点から、現代において平和をつくり出す者としての一人ひとりの責任と役割の重要性を、身近な題材を用いつつ分かり易く語って下さいました。今回の講演から、普段かつ不断の正確な情報の把握とキリスト教教育が戦争への効果的な抑止力になるという示唆を受けました。ご多忙な学務や学生指導の中、今回の講演の為に来学下さった町田先生に心より感謝申し上げます。

報告者 青野和彦



聖歌隊練習報告
松本 真輝(英語科1年)

宗教部(HOPE)のメンバーはほとんどが聖歌隊(コイノニア)に参加しています。私もHOPEに入ってから聖歌隊に参加しています。これまでに大学のオープンキャンパスや学生礼拝、図書館行事などの場で賛美を歌わせてもらいました。楽器にギターやパーカッションを入れてみたりと、クリエイティブな方法も試してきました。クリスマス礼拝に向けた聖歌隊練習は昼食時間や放課後の時間をつかって皆がハードに頑張っています。講師がいない時でも学生宗教部は行動に移ります。このように、HOPEメンバー全体に自主性が芽生えてきているような印象を私は受けます。学生ひとりひとりの情熱と、それを陰ながらささえてくれる教職員に音楽講師に大変感謝します。そして何よりも神様はすばらしいと人々に告白していこうではありませんか！

☆「クリスマス礼拝・祝会」の御案内☆

いよいよ12月です。今年もクリスマス礼拝・祝会を下記のとおり開催いたします。慌ただしい毎日ですが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日 時：12月19日(金)

礼拝/18:00～19:30 場所:仲里朝章記念チャペル

*献金をご用意ください。

祝会/19:45～21:00 場所:体育館

*軽食が出ますが一品持ち寄りも歓迎します。

